讀賣新聞
ワークシート通信

2026年 3月 11日

★★

雪どけの山に春の息吹

年　組（　）名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

◆山や野原に生えていて、食べられる植物のことを「山菜」といいます。石川県小松市の山の麓では、春の山菜が顔を出し始めました。

小松に春の息吹

（2026年2月22日　読売新聞石川版より）

春の山菜を代表するフキノトウが、小松市滝ヶ原町で、雪どけとともに地面から顔を出し始めた。

鞍掛山（標高477㍍）の麓にある同地区ではこの時期、フキノトウは天ぷらや味噌和えにして楽しむ。住民によると今冬は雪が多く、まだ残るところもあるため、例年に比べて2週間ほどフキノトウの出現が遅れているという。3月中旬にピークを迎えそうだ。

※先生やおうちの人といっしょに読みましょう。

【1】写真の山菜はなんとよばれていますか。

【発展問題】山菜には、ほかになにがありますか。うらに山菜の名前や絵をかきましょう。

©The Yomiuri Shimbun

年　組（　）名前　　サイン

◆日本には酒やしょうゆ、みそなど多くの発酵食品があり「発酵大国」と言われます。なぜ、それほど多くの発酵食品が生まれたのでしょう。（2026年2月19日 読売新聞朝刊より）

微生物が作る「ふるさとの味」

発酵食品は、カビ、酵母、細菌といった微生物を利用して作ったもので、うまみが増したり保存が利くようになったりする。腸内環境を整え、免疫力を上げる効果も確認されている。

滋賀県の代表的な郷土食「ふなずし」はその一つで、平安時代中期の文献にも登場する。同県では、今でも体調の良くない時に、薬代わりに食べる習慣がある。京都華頂大の橋本道範教授（歴史学）は「この地では、古くから健康管理の上でも欠かせない食品だった」と話す。

北海道の「飯寿司」、福岡県の「辛子明太子」……。日本には、ふなずし以外にも食材を発酵させて作った郷土食が各地にある。

国内各地で発酵食品が生まれた理由について、発酵学者の小泉武夫・東京農業大名誉教授は日本の気候が温暖湿潤であることを挙げる。発酵に利用される微生物は20～40度の温度で活動が活発になる。また、稲作が盛んなことも影響した。例えば、酒造りなどに利用されるこうじ菌は、秋の収穫時の稲に多く生息していた。

小泉名誉教授は「日本には気候などによって発酵に関わる微生物が自然と集まった。人々は生活の中で役立つものを見定めるようになった」と説明する。

（写真①は滋賀県提供、③は福岡県観光連盟提供）

【1】日本の各地で多くの発酵食品が生まれたのはなぜでしょう。

【2】図の①～③に入る発酵食品の名前を書きましょう。ほかの地域の発酵食品のことも調べて書きましょう。

答えはうらに書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

讀賣新聞
ワークシート通信
2026年 3月 11日
★★★★
花粉　北海道・東北で多そう
読売新聞 教育ネットワーク YOMIURI EDUCATION NETWORK

年　　組　（　　）　名前

サイン

花粉 北海道・東北で多そう

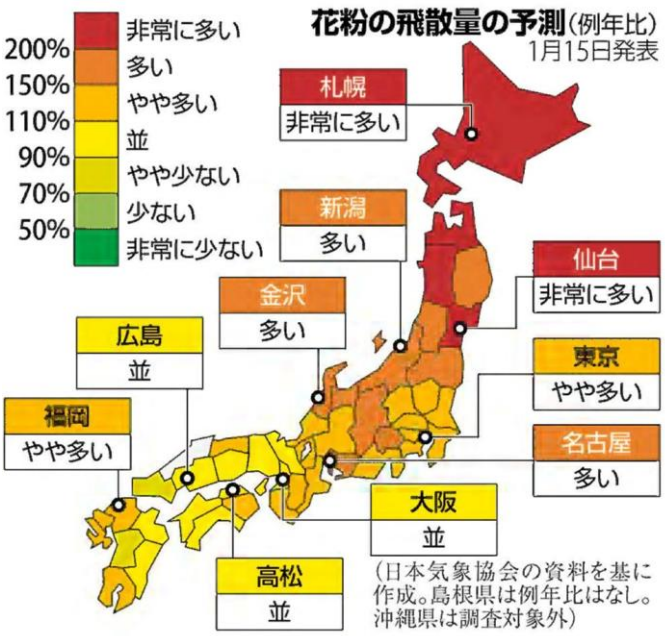
◆国民の4割超が悩まされている花粉症。今年のスギ花粉の飛散量は北海道や東北で例年と比べて2倍以上と予測されています。

花粉症は植物の花粉が原因で起こるアレルギー疾患。体内に入ってきた花粉に対して体が過剰な免疫反応を起こすことで、くしゃみや鼻水、目のかゆみなどの症状が出る。

原因の7割とされるのがスギの花粉だ。昨年の夏は全国的に高温・多照となり、花粉を飛散させるスギの雄花の生育に〝好条件〟だった。環境省が昨年11、12月に全国の林齢25～60年のスギ林を対象に生育状況を調べたところ、雄花の芽の数は北海道、大阪、奈良では例年の3倍超。京都、徳島、山形、静岡、愛知、鳥取の6府県でも2倍を超えていた。

花粉症に悩む人は増えており、10代も無縁ではない。

民間の気象情報会社「ウェザーニューズ」が行った調査では、花粉症だと答えた人を年齢別に見ると10代が71％で最多、20代が67％で続き、若い年代の方が他の年代より発症率が高かった。



（日本気象協会の資料を基に作成。島根県は例年比はなし。沖縄県は調査対象外）

政府も深刻な国民病の解決を目指し、23年に花粉症対策を策定している。スギの人工林のうち飛散量が多い樹齢20年以上が9割を超えていることから、10年後に2割減、30年後に半減させることを計画。伐採や花粉が少ないスギへの植え替えを進めている。

（2026年2月20日　読売中高生新聞より）

【1】今年のスギ花粉の飛散量が、例年より多いと予測される理由を書きましょう。

【2】スギ花粉の飛散量を減らすため、政府はどのような取り組みを進めていますか。

【発展問題】花粉症の人が、自分でできる対策を調べ、裏に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

讀賣新聞
ワークシート通信
2026年 3月11日
★★★★★

言葉の理解 ミスと補正から

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

年　組（　）名前

サイン

今井さんが重視する三つの用語

記号接地

地面に接することで人が歩けるように、言葉が生身の現実と密着しながら、自在に使えるようになる状態。身体世界を欠く人工知能は、根本的に記号接地に至らないとされる

アブダクション

理詰めの演繹（ディダクション）や、多くの事例から導く帰納（インダクション）といった推論でなく、データが少なくても仮説を立てる推論。実は科学研究でも見られる

スキーマ

人の知覚に不可欠な枠組み。『英語独習法』は、巨大な全体の一部が海面に頭を出す氷にたとえ、言葉で説明できるわずかな知識の下に「豊かな知識のシステム」があるとする

◆ベストセラー『言語の本質』の著者で慶応大教授を務めた認知心理学者、今井むつみさんは「丁寧に話せば伝わる」は思い込みかもしれないと、問いかけています。

編集委員　清水美明

「手早く結果」求めぬ社会を

「言葉は血肉をなくして骨だけになった情報のようなものです。伝えたいことは満足に伝えられない。聞く方はそこから相手が言っていることを再構成しないといけない」

ところが人は言葉を使いこなし、読み書きも会話も問題なく成立しているように感じる。だから、学校も組織も、丁寧に伝え、教えれば、相手に伝わり、学んでもらえる、という前提で運営されてきた。しかし、それは、思い込みかもしれない。これが今井さんの大きな問いかけだ。

「大人は子どもに言葉の意味を教えることはできません」と今井さんは言う。先月、都内で開かれた日本臨床医学リスクマネジメント学会で登壇したときも、そう切り出した。「ウサギという言葉でさえ、子どもは限られた事例から、つまり点から、自分の推論で面を作り、やっと理解できるようになるのです」

意味がわからない子どもは、大人の導きとは無関係に、目の前のこれもウサギかな、と当てにかかる。今井さんが注視してきたのは、たわいもない一歩だ。この一歩は外れることもある。それでも、外れとその補正を通して面が作られ、「言葉は延長された自分の体のように使えるようになる」。今井さんが記号接地（左上に用語説明）と呼ぶこの段階になって始めて、子どもは、その言葉がわかる。

今井むつみさん

外から与えられるのでも、教える―学ぶの関係によってでもなく、裏づけもなく、一人でやる未知の闇への一歩。今井さんは、この一歩が、100年以上前に哲学者パースがアブダクション（左上参照）と命名した推論の形と同じだと気づいた。

それは、辻褄にこだわらず仮説を立てる力であり、人間の性向でもある。幼少期から備わり、大人になってもぬぐいがたく、しみついて離れない。

言葉の理解には、点の体験と推論から面を作る必要があった。物事に対しても、体験を通して面を作る。今井さんによれば、これらの面を組み合わせ、いわば知識の枠組みを構築することで、人は対象が理解できる。この理解のツールは多くの人に共有されることで、共通理解も生み出す。

それは自覚されないが、欠落なら思い当たる。新書『英語独習法』は、不可算名詞（頭にaを付けない）を例に、日本語話者がいちいちこの不可算名詞につまずくのは、「完全に身体化され、無意識に働く」ような理解のツールがないからだと指摘する。心理学者がスキーマ（左上参照）と呼ぶものが。

だとするなら誤答は、数を理解するスキーマを持てないまま、独自に組み立てたスキーマに基づいて導いた、彼らなりの結論だ。

人は、思いつきの一歩で仮説を立て、ミスを重ねて進化してきた動物で、その社会には、異なるスキーマを持つ人が集まる。ミスは繰り返され、会話は誤解を生み、またミスが起こる。今井さんの仕事から得られる人間観だ。

となれば、これを防ぐと称し、仕組みを作り変え、ルールを設けて片づけるほうがむしろ〈誤答〉だ。ミスをやらかす人を肯定し、その人の根っこにあるスキーマを手探りし、会話を続けるしかない。

（2025年10月25日 読売新聞朝刊より）

【1】今井さんが「丁寧に話せば伝わる」は思い込みかもしれないと考える理由をまとめましょう。

【2】言葉を理解するにはどうするべきだと今井さんは考えていますか。裏に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

年　組（　）名前

サイン

猫ピッチャー そにしけんじ
NEKO Pitcher
136 Kenji Sonishi

◆ミー太郎が苦手とするニタトリ選手は、見た目だけでなく、しぐさも鳥のようです。ミー太郎のイライラは徐々に募ります。

annoyed

イライラした　怒った

「怒る」には「angry」など、様々な表現があります。「irritated」もannoyedと似た意味で、イライラした状態を表します。

★こんな表現も使ってみよう★

- irritated　イライラする
- frustrated
- get on one's nerves　むかつかせる　イライラさせる

単語帳 waddle：よたよた歩く　boiling point：沸点、我慢の限界

★なぞってみよう★

annoyed

irritated

©The Yomiuri Shimbun

広告

企画・制作／読売新聞社ビジネス局

データを駆使して新たな価値を創出する「デジタル人材」が日本の未来を拓く！

「デジタル人材」の不足が叫ばれる今、文部科学省が情報系の大学・学部の開設を支援したり、産業界でデジタル人材の育成に取り組んだり、さまざまな施策が推進されています。データ社会で求められるのはどのような人材か。第一線で活躍するデータサイエンティストの田邊祐馬氏に、これまでの学びや現在の仕事内容などについて聞きました。

経営学部からSEを経てデータサイエンティストに

中学時代からプログラミングに興味があり、高校は理系クラスでした。ただ当時関心のあった経営を学ぶため経営学部に進学しました。組織論などアカデミックな科目を履修しながら「実践的なことに取り組みたい」「卒業後はシステムエンジニアになりたい」という思いで、独学でプログラミングを学んでいました。

卒業後に就職したシステム会社では、市役所向けの水道料金システムの開発に携わりました。仕事をする中で、次第にデータ活用やAIに興味を持つようになったんです。もっと技術的な部分でキャリアを積みたいと、大手メーカーやインターネットを活用して急成長していたところ、2017年ごろに出会ったのがデータラーニングでした。大量のデータを学習させることで、人間の脳のように自動的に特徴を抽出するディープラーニングの将来性に惹かれて、データサイエンス分野への転職を決めました。

シミュレーションを高速化する「サロゲートモデル」を開発

村田製作所には「サロゲートモデル」を開発しています。サロゲートモデルとは、商品開発において計算に時間がかかる物理シミュレーションを機械学習で高速化する数理モデルです。従来は設計者の経験や勘に頼っていたところを、サロゲートモデルの導入により、属人化なく、お客様にとり良い部品をより早く届けられるようになります。自分が開発した技術が現場で使われ、業務効率化や品質向上につながっているのを大きなやりがいを感じています。

現在データサイエンティストとして働いていますが、技術を駆使してデータを分析するだけでなく、事業部やお客様と連携し、会社や社会に貢献することが大切だと考えています。データサイエンティストに必須の資質はありませんが、高校・大学レベルの数学は、新しい技術を学び続けるための「基礎体力」としてあると良いでしょう。私は文系学部に進学したので、数学や物理の学習で遅れを取り戻さなければなりませんでしたが、学ぶことに意味を求めたので苦労したという感じはありません。

昨年には会社の業務として、推薦技術※を競う「Recsys Challenge」という国際コンペティションに参加しました。また、個人的にも、データ分析プラットフォームである「Kaggle」のコンペで楽しみながら技術を高めています。単純に自分が好きな技術で会社に貢献できていることが、楽しく仕事ができている理由ではないでしょうか。今後は、個別技術を深めるという「点」から、会社全体を俯瞰し戦略を構想・実行するという「面」へと、役割をシフトしていきたいと考えています。

専門性を掛け合わせ「基礎体力」を養ってほしい

デジタル分野で働く身として、生成AIなどの技術が指数関数的に発展しているのを肌で感じています。3年先がどうなっているかを予想できない状況です。これからのデジタル人材は、ツールを使うだけでなく、専門技術を使うセンスがますます求められると思います。現在は、私が大学で学んだことに比べ、AIやデータサイエンスを学べる情報系の学部やプログラムが充実しています。例えば同じデジタル人材でも、プログラミングなどの基礎知識を持つ人材と持たない人材とでは生産性や成果が大きく違ってくるので、大学でしっかり基礎スキルを習得することが大切です。また、情報系の専門性と他分野の専門性を「掛け算」することによって、様々なキャリアが開けていくでしょう。例えば、情報と医療、情報と医薬、情報とテーマなどを掛け合わせることで、独自の価値を創出できます。これから大学進学を考えている皆さんには、ぜひ専門分野だけでなく、幅広い分野を学んでほしいと願います。学びも大切にして、人格形成に役立てください。大学で培った「基礎体力」は、社会に出てから、新しい技術を吸収し応用するのに必ず生きてくるはずです。

※ユーザーに最適な商品やサービスを推奨する技術

株式会社村田製作所 情報システム統括部 データ戦略推進部 データサイエンティスト
田邊（たなべ） 祐馬（ゆうま） 氏

京都府出身。2012年3月神戸大学経営学部卒業後、システム会社で市役所向けのシステムの導入・開発を担当。その後、データサイエンス派遣会社を経て、19年から村田製作所で製造業におけるデータサイエンティストとしてキャリアを積んでいる。登録者数約3000万人（※1）の世界最大級のデータ分析プラットフォームであるKaggleにおいて、世界で約400人（※2）しかいないGrandmasterの称号を持つ。

※1・※2 2026年2月現在

Column
増加するデータサイエンス・情報系学部 しっかり「中身」を調べることが重要

経済産業省の予測では、2030年には日本でIT人材が最大79万人不足する見込みです。IT人材へのニーズが高まる中、「データサイエンス」や「情報」と名の付く学部・学科がこれまで以上に増えています。

しかし一口に情報系といっても、数理科学やデータサイエンスだけでなく、ビジネスからメディア、コミュニケーション、デザインまで、学問分野は幅広く、大学によって学べる分野は異なります。また、どの学部に所属していても学べる共通プログラムとして準備している大学もあります。情報系学部への進学を考えるなら、そこで学べる内容をしっかり知ることが大切です。

■大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等）選定結果

文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」の「支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等」には、初回公募で67件、第2回で59件、第3回で27件が選定されました。選定大学が新設・定員増を行うことによって、データサイエンス・情報系学部が急激に拡大しています。

読売新聞オンラインでも公開中！

RYUKOKU UNIVERSITY 龍谷大学

情報学部 ※仮称・設置構想中 2027年4月開設予定

未来をカタチに変え、リードする力を

情報技術が急速に発達するいま、求められるのは専門的な知見を社会やビジネスに応用する、課題解決型のアプローチです。情報学を起点に、あらゆる文脈において人間を中心に据えた価値を創出するリーダーを育成する、それが、融合大学情報学部※がめざす教育のあり方です。地域や社会と深くつながり、課題に気づき、自律的に問いを立てる姿勢を養う、文理の枠を超え、自らの興味や課題を学びと掛けあわせ、独自の価値を創出する、協働を通してリーダーシップを磨き、社会実装を見据えた解決策を構築する、未来の共通言語である情報技術を活用しながら、社会、経済、人の心まで見据えた感性と総合力で、個の幸せや人間社会の可能性を、限りなく拡張していきます。

▼特色 POINT
- 「情報×社会課題」興味・関心に応じて情報学の学びをデザイン！
- 多様な学びを体現する3専攻分野「情報メディア専攻」「知能情報システム専攻」「実践データサイエンス専攻」
- ハッカソン（Hackathon）ソフトバンク株式会社と連携した社会への実装力を育む取り組み

▼育成する人材像
「実践力」「応用力」を有する情報人材を育成
- メディア分野に強い情報処理技術者
- ネットワークやIoTに精通した情報システム技術者
- ビジネス力を備えたデータサイエンティスト

※配置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。

情報学部※特設サイト

OPEN CAMPUS 京都・深草キャンパス 3/22（日）
※情報学部のイベントを同キャンパスで実施します。

同志社大学 Doshisha University

文化情報学部

文化×データサイエンスで、人間を解き明かす

文化情報学部は、文化・芸術・言語・身体表現といった人間の営みを対象に、データサイエンスの手法で解明する文理融合の学びに20年にわたり一貫して取り組んできた学部です。

本学部では、文化を習慣・価値観・信念など、人類が長い時間をかけて培ってきた知の集積であり、データサイエンスの最重要ターゲットと捉えています。こうした文化を、過去から受け継がれてきた知のデータとして分析し、未来の社会を設計するための資源として活用します。

人類が培ってきた文化を情報として扱い、次の社会につなげる。それが文化情報学部の学びです。

▼特色 POINT
- 文化をデータサイエンスの対象として捉え、人間を総合的に理解する分野横断型カリキュラム
- 複数人での共同プロジェクトを通じて、異なる視点をつなぐ協働のノウハウを身に付ける探究型教育プログラム
- 情報科学の手法に触れながら「情報とは何か」「文化とは何か」という本質的問いに向き合う総合知創出を目指した実践的学び

▼育成する人材像
そのデータに意味はあるか―。
文化情報学部が育成するのは、技術を単に使いこなす人物ではありません。
- 文化事象を理解し、課題を発見・整理し、データに基づいて考え、判断し、発信できる人物
- 異なる専門や価値観をもつ人と協働し、柔軟な発想で新たな問いや価値を創出できる人物
- 情報技術を手段として用い、「情報とは何か」「文化とは何か」を問い続け、高い倫理観と責任感をもって社会に貢献できる人物

文化情報学部 詳細はこちら

OPEN CAMPUS 京田辺校地 3/28（土）
多型予約制・多彩な企画を多数ご用意！

つなぐ知 かなえる技 大阪電気通信大学 Osaka Electro-Communication University

デジタル技術×専門分野

社会に役立つために、デジタルスキルを駆使する

本学は1965年に現在の情報工学科の前身である経営工学科をいち早く設置し、以来、60年にわたり情報教育に取り組んできました。現在は全学部で情報教育を展開し、分野を超えてデジタル技術が学べます。

2023年には、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」において、全学部が応用基礎レベルの認定を取得。数理・データサイエンス・AI、情報、ICTなどを体系的に学び、課題発見・解決力を身に付けます。さらに、電気・機械・医療・建築などの専門分野でもデジタル技術を活用し、充実した施設で実践的な学びやモノづくりに取り組むことができます。

▼特色 POINT
- 全学部でデジタル技術が学べる
- デジタル技術×専門分野の実践教育
- 課外活動や授業、プロジェクトで実践力を育成

▼育成する人材像
デジタル技術を基盤に専門性を高め、社会課題の解決に挑む「デジタル技術活用人材」
- AIを活用し、エンジニアリングプロセスを効率化
- AIやロボットで医療従事者の負担軽減と医療の質の向上
- AIやシステムを活用し、効率的で精密な建築設計

デジタル技術活用人材はこちら

OPEN CAMPUS 寝屋川キャンパス 3/20（金・祝）
事前申込制・「好きをスキルに」好きが見つかる1日

大手前大学

情報学部 ※仮称・設置構想中 2027年4月開設予定

情報社会を「感性」でひも解く

現代社会学部情報・コンピュータ専攻を進化させ、新たな学びを展開する「情報学部」が2027年4月に誕生します（仮称・設置構想中）。従来の情報学の枠を超え、「AI・情報技術」に「感性・人間理解」「デジタル表現・体験」を融合させ、人にやさしい未来のデザインを目指します。

文系的・理系的どちらの関心にも応える文理複眼型のカリキュラムを編成。数学や情報の履修レベルにかかわらず、感性情報学や人工知能（AI）、バーチャルリアリティー（VR）など最先端テクノロジーを基礎からしっかり理解できる授業設計を行います。

▼特色 POINT
- 業界の第一線で活躍する専門家によるメンター制度
- プロジェクト型学習で課題解決や価値創造の力を身に付ける
- 国家資格「基本情報技術者試験」などの取得をサポート

▼育成する人材像
- デジタル技術と感性情報学の知見をもとに、ソリューションを実現するシステムエンジニアやAIエンジニア
- 感性価値やウェルビーイングの視点およびデジタル技術を駆使して商品企画やマーケティング分野で活躍する人材
- 人々の心に響くデジタル体験を生み出すサービス、ゲームや各種コンテンツを企画・開発する人材

※記載の内容・名称は構想中の予定であり、変更される可能性があります。

情報学部の詳細はこちら

OPEN CAMPUS 未来を動かす、価値ある体験！ 4/19（日）6/14（日）7/18（土）
情報学部のプログラムは茨木呉川キャンパスで実施

甲南大学 KONAN UNIVERSITY

知能情報学部 知能情報学科

6つのコースを組み合わせ、先端的な学びを実現
- クラウドシステム：ソフトウェア開発や安全なネットワーク環境の構築をめざす
- AIデータサイエンス：ビッグデータの分析・活用を通じ、AIアプリなどの開発をめざす
- 知能ロボット：人の役に立つロボットの開発をめざす
- メディアデザイン：直観的な情報メディア表現技術の開発に取り組む
- ヒューマンセンシング：人間とコンピュータのより良い関係の構築をめざす
- 数理情報：数理設理と情報技術を身につけ、幅広い分野で活躍する力を養う

上記6つのコースから組み合わせ、興味に合わせた自分だけの先端的な学びを深めながら、AI社会を支える未来のゼネラリストとして成長していきます。

▼特色 POINT
- 演習・実習のような体験型授業と、教員と学生や学生同士が議論しながら進める双方向型授業
- 学内・学外での実践を通して、知識や技術に加えて人間力も培う
- 彩り教育：AI・ロボット開発から競技プログラミングやVR制作まで、多彩な課外プロジェクトで挑戦・活躍できる

▼育成する人材像
情報学の幅広い知識で、AI社会を支える未来のゼネラリスト
- ビッグデータの分析や活用により、社会課題の解決を図るデータサイエンティスト
- ソフトウェア・情報通信分野や製造業をはじめ、IT・AI化が進む多様な分野での活躍
- ICTを活用する中学校・高等学校の数学・情報教諭
- VR・ARやIT技術を駆使して、ビジネス、教育、医療、エンタメなどの分野で新しい価値を創出する人材

知能情報学部の詳細はこちら

OPEN CAMPUS 3キャンパス同時開催 4/5（日）
参加申込はこちら
事前申込制

京都産業大学 KYOTO SANGYO UNIVERSITY

むすんで、うみだす。

情報理工学部 情報理工学科

情報技術×理工学で、未来をデザインする人材へ

情報学をベースに、電気電子工学、数理科学、脳科学（神経科学）、デザイン学を融合させて、情報科学を駆使するための理論と実践を学びます。

「AI・データサイエンス」「ロボットインタラクション」「ネットワークシステム」「情報セキュリティ」「コンピュータ基盤設計」「組込みシステム」「デジタルファブリケーション」「脳科学」「メディア処理技術」「情報システム」の10コースから、自由に組み合わせて学ぶことが可能です。体系的カリキュラムや最新機器・設備など、新たな分野を創造・挑戦しやすい環境のもと、情報科学のプロを目指します。

▼特色 POINT
- 情報社会のニーズに応える実践力を養うコース制を完備
- 少人数教育によるきめ細かな指導で未知の領域へ挑む力を育み、大学院への進学も積極的にサポート
- 3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタル工作機器が揃う「ファブスペース」や実験住宅など研究環境が充実

▼育成する人材像
- ビッグデータ解析技術・機械学習技術を駆使するAIエンジニアやデータサイエンティスト
- ハードウェアやネットワークの基盤技術などを生かし、次世代のビジネスインフラをつくる人材
- ICTや通信の設計・運用など、現代社会のITインフラの根幹を支える人材
- IoT機器やスマートウォッチなどウェアラブル機器の回路設計や機器・ソフト開発を担う人材など

情報理工学部の詳細はこちら

OPEN CAMPUS 3/28（土）
申込みはこちら
事前申込制、完実した プログラムを用意。

関西学院大学 KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

全学科目 AI活用人材育成プログラム

学部の垣根を越えた学び。AIを使いこなす人材に

豪先端のAIの一つとして知名度の高い"Watson"を擁するグローバル企業「日本IBM」と開発した完全オリジナルプログラムを提供しています。AIに関わる人材のうち、ハード（開発者）ではなく、社会の人材需要のボリュームゾーンであるソフト（活用者、提案者）の育成をターゲットとしています。

受講は理系文系問わず、初心者から段階を踏んで知識を得られる設計で、最終的には企業や自治体の課題解決のためのソリューション提言を行う発展的なカリキュラムまで揃っており、社会で通用する実践力を身に付けることができます。

▼特色 POINT
- 文理問わず、全学部対象の共通科目。他学部の学生と切磋琢磨できる
- オンライン・オンデマンドで提供。場所や時間を問わず受講することが可能
- 日本IBMをはじめ、AI活用企業の実務の視点を取り入れた授業内容で即戦力となれる

▼育成する人材像
AI・データサイエンス関連の知識を持ち、さらにそれを活用して、現実の諸問題を解決できる能力を有する「AI活用人材」
- AIスペシャリスト：AI技術を活用してAIユーザーの抱える問題に対してソリューションを提供できる人材
- AIユーザー：AI技術を利用したソリューションを用いてビジネス上の問題解決を行う人材

AI活用人材育成プログラムはこちら

OPEN CAMPUS 西宮上ヶ原キャンパス 3/22（日）
要申込制・多彩な企画を多数ご用意しています！

KUISs 関西国際大学

情報学部 情報デザイン学科 2026年4月新設

新設！ 神戸で最先端の情報を学べる大学

AIを創る、AIを使いこなす、AIを発信する。をテーマに、これからの時代に求められる次世代の知識と技術を学ぶ情報学部が「神戸」に誕生しました。

大学での学びや経験は、将来の選択肢を広げ、自分の可能性に気づくきっかけになります。AIをはじめとする最先端の情報技術と知識を基礎から学び、新しい社会をつくる一人として成長していきましょう。その先に、社会へ羽ばたく未来が待っています。

▼特色 POINT
- 文系も理系も、情報分野に興味があれば大丈夫！ 知識と技術はイチから丁寧に、ゼロから情報のプロへ
- 学部を越えて分野を組み合わせて学べる学びのシステム
- 将来の目標を学びながら見つけられるよう整備された豊富な経験学習

▼育成する人材像
- 「システムデザイン」モデル IT企業や企業・行政のICT分野で活躍するエンジニア人材
- 「ビジネスAI」モデル 金融・メーカー・観光業で活躍するIT営業・DX推進人材
- 「AIクリエイター」モデル IT・映像・広告分野で活躍するデジタルクリエイティブ人材

OPEN CAMPUS 情報学部のOCには神戸山手キャンパスで実施 3/22（日）4/19（日）5/10（日）